学童保育の夏休み——大切にしたいこと

編集部

間もなく夏休み。「朝から夕方まで長時間を共に過ごすなかで、遊びの幅が広がったり、子ども同士、子どもと指導員の関係が深まる」「夏休みに行った保護者会行事を通じて、保護者の仲がぐっと深まった」といった保護者・指導員の声が、全国各地から寄せられています。夏休みの「生活づくり」で配慮したいことなどをまとめます。

◎夏休みの計画

◆計画を立てる際には、それまでの生活をふり返り、子ども一人ひとりの「いまの様子」「これからの関わり」などについて話しあうところからはじめます。前年の計画を参考にしつつ、その年に在籍する子どもや子ども同士の関係を考慮して、一日の過ごし方、行事、外出、指導員の仕事内容や役割分担について具体的に話しあいます。戸外保育などの下見もしっかり行いましょう。

指導員の勤務体制などの準備は早めに行います。朝、施設を開所する予定の指導員が開所時間に間にあわないなど、万が一の事態が生じた場合の連絡体制についても、確認が必要です。また、学校と連絡を取りあい、登校日・補習授業・プールなどの学校行事や、夏休みに関わって学校から家庭に連絡された内容を把握しておきます。体育館や図書室など、学校施設を借用できる場合は、事前に学校と留意事項の確認などを行いましょう。

◆子どもたちと、夏休みの過ごし方について話しあいます。一日の過ごし方、持ち物などはもちろん、「やってみたいこと」「つくってみたいもの」「行ってみたいところ」などについても話しあうと、子どもたちがイメージを抱くことができ、見とおしを持って夏休みを過ごすこ

つづきは本誌をごらんください